

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100126		
法人名	有限会社 ナイスケア		
事業所名	グループホームひまわりの家 1階		
所在地	千歳市北斗4丁目14番4号		
自己評価作成日	令和2年1月15日	評価結果市町村受理日	令和2年3月3日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様一人一人の要望に応えられるような支援を心掛けています。楽しく安全に生活できるような暮らしを提供しています。地域との繋がりが継続できるように町内会の夏祭りや市内のグループホーム合同で行う絆の会の運動会に参加し、認知症状のある方の暮らしへの理解深めていただけるように働きかけています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhvu_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0171100282-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhvu_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0171100282-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和2年2月13日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、最寄りの駅から車で10分程で、バス停も近くにあり、住宅街に立地している。代表者は、複数の介護関連事業所を展開しており、地域資源としての役割を認識し、運営の向上に努めている。隣接の事業所とは、もちつき大会など各種行事や非常時の協力体制等で連携が図られている。市主催の防災訓練や花いっぱいコンクールへの参加、町内会の夏祭りでは、職員は、焼き鳥を手伝い、利用者は、よさこい踊りや出店を楽しんでいる。運営推進会議の参加者拡大に取り組み、町内関係者や家族の参加が得られている。職員は、利用者と昔話など会話を楽しみ、暖かくなったら利用者や散歩をしたいなど、ケア理念である「安心した生活の中、1日1回でも笑って頂く」ことを目指した支援に努めている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員及び来訪されたご家族様等にも見える場所に提示している。楽しい生活を送っていただくことを常日頃重視している。	法人の運営理念とケア理念を事業所の基本理念として掲げている。職員は、利用者を主体とした各理念を目標とし、会議等で実践の確認を行うなど認識を新たにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内夏祭り、ラジオ体操に参加し、老人会会長も声を掛けてくださり、交流を続けている。運営推進会議にも老人会会長が参加して下さる。	町内会の夏祭りには、職員は焼き鳥を手伝い、利用者はよさこい踊りや出店を楽しんでいる。職員の支援で、公園でのラジオ体操参加が恒例になっている利用者もいる。地域住民からの介護関連の相談事には快く応じるなど、地域資源としての役割を理解している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会の行事の際に地域の方に認知症の方の支援の方法を提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の近況報告、ホームでの活動状況、今後の予定を報告し、互いに意見交換をしている。	関係者の参加を得て2ヶ月毎に開催し、現況報告後に質疑応答が行われている。課題であった参加者の拡大は、職員の努力により町内関係者や家族の参加が得られている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月発行しているグループホームの新聞を閲覧していただき、活動内容を報告している。市が主催する地域防災訓練にも参加し連携を図っている。	行政とは、運営推進会議の議事録や月1回発行の「ひまわり新聞」を届け、現状を伝えている。運営やケアに対する事案は、担当窓口を訪れたり、電話等で指示を仰ぎ、業務の改善に生かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全を最優先し、職員一人一人がお互いに確認しあいケアに努めている。身体拘束廃止委員会でも注意点を確かめ合っている。	身体拘束等廃止に向けて、指針やマニュアルに沿った適正化委員会や研修会、勉強会を随時開催し、共通認識に努めている。日常業務に於いても事例検討等で理解を深め、適切なケアに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務中やフロア会議で虐待が見逃されていないか確認し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会やフロア会議内にて勉強会、職員同士での意見交換を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前や契約時に説明し、不安や疑問点がないか確認し回答している。ご家族様がわかりやすいような説明を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪者名簿に職員に伝いたいことを記入していただく欄を設けている。また、ご家族様来訪時に直接要望等がないかを聞いている。	利用者や家族から、運営に対しての要望や意見は殆ど聞かれないが、来訪時や電話等で要望の汲み取りに努めている。利用者の日々の様子は、月1回発行の「ひまわり新聞」に個別のメッセージを添えて報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、職員会議、フロア会議等で意見交換や提案を聞く機会を設けており、業務に反映させている。	職員の意見や提案は、主にユニット会議や年2回の個人面談等で把握している。新人職員の意見は、改めてケアへの気付きが得られている。職員は業務を分担し、運営やケアの向上に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価シートを使用し、定期的に面談を行っている。また日々の会話、報告から思いや考えをくみ取るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加しやすいように業務を調整し、参加できなかった職員への情報提供をしている。外部講師の勉強会がある際も積極的に参加するように伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千歳市地域密着型事業「絆の会」で勉強会を開催し、職員が参加してサービスの質の向上を図り、他事業所の職員との交流する機会も作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との関わりの中で要望を聞き、満足できる生活を送れるように努めている。また、思いを伝えられない方には、本人が何を望んでいるかを予測、観察し支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や意見を聞き、よく話し合い、良好な関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の状況に応じ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は出来る限り本人にして頂くような支援、自信を持って生活を送ってもらう。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来訪時やお手紙等で日頃の様子を報告しています。イベントにも参加依頼し、夏祭り、運動会等のボランティアにも協力していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族の意見を尊重し、地域、馴染みの人や場所との関わりが続くように支援している。	ラジオ体操の参加や千歳神社祭の見物、葬儀参列への協力等の支援を行っている。日常は昔話を傾聴し、共有している。家族の支援で、お盆やお正月に一時帰宅が叶えられたり、家族はもとより近所に住んでいた知人が多数面会に訪れる時などは、快く迎えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活では役割分担をしたり、座席の工夫、共通の話題等を提供し孤立しないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談にのっている。気軽に来れる環境作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の希望や意向を聞き、支援に反映している。困難な場合はその方の身になって支援の内容を検討している。	職員は、利用者との会話や表情、問いかけに対する反応等から、要望を推し量っている。家族から「甘い物が好物」などの情報や個別の記録等も参考にして、満足感が得られる支援になるよう職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談をしたり、ご家族、病院や施設からの情報を参考に入居後も細かく聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の引継ぎ、記録、連絡ノートを活用し職員全員が把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議内での話し合いで、アセスメントシートの記録から課題を見極め、職員間での意見交換やご家族様にも相談しながら介護計画を作成している。	ユニット会議の中でケア会議を開催している。関わりの中から、利用者や家族の望む生活への要望を把握し、個別の記録や医療従事者の意見も含め、適切なケアプランになるよう意見交換が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートへの記録や連絡ノートを活用し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに即話し合いをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事等に参加できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療の医師による定期的な往診の実施	受診する医療機関は、利用者や家族の意向を尊重している。殆どの利用者は、2週間毎の訪問医を主治医としている。従来からのかかりつけ医や専門医への受診は、家族と職員が協力して支援している。週1回の訪問看護師による健康チェックも行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院関係者やご家族様との連絡を密にとり、早期退院できるように働きかけている。また、介護医療連携の会に所属し、日頃から病院関係者との関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できちょうなことを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早期に主治医、ご家族様に相談し、今後について話し合いを行っている。	看取り介護に関する指針を整備し、入居時に利用者や家族に説明して同意を得ている。状態変化時は都度、主治医や家族と情報を共有し、家族の意向確認を経てターミナルケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア会議にて実例をあげシミュレーションし急変に対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し消防署の方にも参加していただき協力体制ができている。地域の防災訓練にも参加している。	日中・夜間想定避難訓練を定期的に行い、さらに、市の防災訓練に2名の職員が参加している。訓練は単独で行っているが、非常時には、同じ敷地内にある系列事業所と協力体制を整備している。	火山噴火以外は危険地域ではないが、あらゆる災害やケア場面での対処方法などマニュアルの整備、図上訓練、実践的訓練に加え、地域との協力体制の強化に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重した言葉遣い、態度を心掛けるように指導し、職員は配慮して対応している。	言動など不適切な場面がある時は、職員間で声を掛け合い注意を促している。個人関係の記録時は、他者の目に触れないようにし、引き継ぎ時も会話に配慮するなど、意識統一に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自己決定や意思を伝える場面ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の一人一人のペースに合わせて対応し希望にそった生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望で選んでいただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をして話をしながら気分よく食事を楽しんでいただく支援を心掛けている。	朝と夕方は、業者から食事が届いているが、昼食は、利用者の好みそうな物を献立に取り入れ調理専門職員が作っている。行事食では、赤飯や茶碗蒸し、寿司の出前、さらに、利用者希望のカレーライスや元調理人の利用者が腕を振っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた量、形態(きざみ、ミキサー食)を提供している。水分量はアセスメントシートに必ず記入し、摂取困難な方にはトロミ剤を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るところまでは、ご本人にしてもらい、不十分な箇所は職員にてケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄パターンにてトイレ誘導している。トイレ通所がない際は声掛けしている。	一人ひとりの排泄の間隔を職員は共有し、自力排泄での見守りや時間誘導等を行い、トイレでの排泄に努めている。利用者の状況により、ポータブルトイレや衛生用品の使用を適宜使い分け、不快感の軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分提供を多くし、乳製品、果物を提供。便秘の際は提携医療機関に相談し下剤処方していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な範囲で希望にそえるように努力している。	入浴は週2回を基本とし、入浴日以外は足湯の要望に応じている。湯船でゆっくり寛いだり、シャワー浴など利用者の状況にあわせて支援している。入浴時は利用者の昔話などを傾聴し、入浴後は要望の飲み物を用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や睡眠状況を確認し、ご本人が希望している時に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルで服薬内容を確認できるようにし、変更があった時は薬の目的や用法等を周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味にあったレクリエーションや嗜好品を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状況に合わせて気分転換も含め行っている。	周辺の住宅の庭を眺めながらの散歩や、公園の散策、プランターの花の水遣り、買い物、夏のラジオ体操の参加等で外気に触れている。夏祭りなど地域の行事や、隣接事業所のボランティアによる日本舞踊の鑑賞等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談しながら必要に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能力に応じて出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースはご利用者様の不穏が招くような刺激がないように配慮し、季節に合わせた装飾品を飾り、行事の写真を提示して、居心地の良い空間作りに努めている。	台所と居間は一体化しており、利用者の動向を察知できる。神棚が祀られ、ひな祭りなど季節に応じた飾り付けや、利用者で作った紙細工、行事の写真、湿度対策で洗濯物を干すなど、家庭的な雰囲気のある共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	通路や玄関先に椅子を置き、独りになれる空間を確保している。テーブル席は気の合うご利用者様同士が話せる配置にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物を持ち込まれており、居心地の良い居室作りに努めている。	居室には、棚や洗濯物ポールが設置されている。利用者は、安心できる馴染みの物品を持ち込み、壁には、家族の写真や趣味の物が飾られており、居心地の良さを感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせてベットや椅子を変更、調整している。安全な生活ができる環境整備に努めている。		